

令和7年度 事業報告

若 杉 作 業 所

1. 事業概要

季節を問わず感染症が流行する状況に対応するため、年間を通して検温・換気・空間の確保等による対策を継続実施した。円滑な施設運営と感染症対策の両立を心がけ年間行事を予定通り実施することができた。また、南海トラフ地震の発生確率の高まりを受け、災害時事業継続計画に基づき職員研修を行い、併せて利用者とともに防災訓練を繰り返し行った。さらに、非常食体験会を実施し利用者の経験値を高めると同時に、課題を抽出し検討した。

日々、職員間で課題を共有しつつ利用者のニーズや障害特性に応じた個別支援計画をリファインし、それに基づく余暇活動、生産活動等の取り組みを通じ一人ひとりの生活の質の向上と生きがいづくりを目指し支援を行った。

2. 事業所運営

1) 施設整備等

エレベータースイッチの交換等建物設備のメンテナンスを行った。

2) 職員構成

令和8年3月31日現在（名）

管理者	サービス管理責任者	支援員	事務員	嘱託医	看護師	計
1	1	6(2)	1	(1)	(1)	9(4)

※()…非常勤職員：外数 ※管理者・事務員は、相談支援事業所わかすぎと兼務

3) 会議

・法人・事業所内会議

会議名	内 容	開催	構成
法人運営会議	理事長、常務理事、管理者等が、運営課題等及び各事業所の情報を共有化するための会議を行った。	原則 月1回	理事長、 常務理事等
職員会議	事業所内の支援の現状や課題等の検討、研修報告、行事及び運営の方向性等について協議した。	毎月1回	全職員
ケース検討 会議	利用者の支援上の諸問題に関する検討を行った。 利用者の個別支援計画の実施状況の確認と、今後の計画の検討を行った。	随時 8月・3月	全職員
支援会議	より充実した利用者のための支援のあり方を検討し、プログラムの見直しなどを検討した。	1回	支援員
虐待防止 委員会	職員の人権意識の向上など職場での虐待防止に努め、身体拘束等の適正化のために開催した。	2回	委員3名
ハラスメント 防止委員会	職場でのハラスメントの防止とその適切な対応に努めるために開催した。	1回	委員3名
感染防止委員会	新型コロナウイルス感染症の蔓延期における感染症対策指針に基づく研修をおこなった。	2回	委員5名

・外部団体主催会議

月	参加者	会議名	主催	会場
5	サビ管	昭海区自立支援協議会総会	昭海区自立支援協議会	昭海区役所第4会議室

4)職員研修

人権等の知識修得や技術向上のため、各種研修に積極的に参加した。

月	参加者	研修名	主催	形式
7	所長・主任	全国知的障害者関係施設長等会議	日本知的障害者福祉協会	東京国際フォーラム
	生活支援員	権利擁護研修	市社協	オンライン
8	生活支援員	発達障害研修	市社協	医師会館
	生活支援員	普通救命研修	市社協	吹上ホール
	生活支援員	人材育成研修	市社協	総合福祉社会会館
9	生活支援員	ファシリテーション研修	市社協	総合社会福祉会館
10	サビ管	ICT活用による業務効率化研修	市社協	オンライン
	所長・主任	防災セミナー	健康福祉局	就業支援センター
11	生活支援員	人権倫理研修	市社協	オンライン
	生活支援員	サビ管更新研修	県社協	オンライン
	生活支援員	アンガーマネジメント研修	市知障協議会	日本福祉大学
	生活支援員	スーパービジョン研修	市社協	総合社会福祉会館
12	所長・主任	日中活動支援部会	日知障協会	新潟市
	主任	サビ管実践研修	県社協	オンライン
1	生活支援員	サビ管実践研修	県社協	オンライン
2	生活支援員	障害者虐待防止講演会	虐待相談センター	オンライン

5)年間行事

感染症への対策を講じながら、行事の開催を通常実施した。

実施日	行事名	内容
4月1日(火)	新年度始まりの会	年度の初めに、職員の挨拶と年間予定の説明などを行った。(参加利用者30名)
7月11日(金)	サマーイベント	季節感を感じられるかき氷を食べ提灯づくりをしながら思い思いのペースで午後のひと時を過ごしていただいた。
10月4日(土) 10月18日(土)	日帰りバス旅行	前半と後半の2グループに分けて観光バスでラグーナテンボスに行った。遊園地を周遊しながらアトラクションを楽しんだり、フードコートでは、好きな料理をご自身で選択し、食事を楽しんでいただいた。

11月8日(土)	交流フェスティバル	保護者やヘルパーも加わり日常生活の動画上映やビンゴゲームなどのステージイベントをはじめ、お菓子作りやカレンダー工房などの出展ブースなどを体験することができ、大いに盛り上がった。保護者と職員が、おしゃべりをしながら、交流を深めることができた。 (参加利用者 22 名 全体参加者延べ約 68 名)
12月12日(金)	非常食体験会	アルファ化米や豚汁などを実際に調理し、屋外で食べていただいた。発災時の食事について体験していただいた。
12月24日(水)	クリスマス会	クリスマス特注弁当やスイーツを食べていただき、雪だるまの貯金箱を作成しゲームやクリスマスプレゼントを楽しまれた。また、2025 年の振り返り動画を鑑賞していただいた。(参加利用者 35 名)
1月9日(金)	新年を祝う会	手作りおにぎり弁当とぜんざいなどを食べ新年のお祝いをした。お正月にちなみ羽子板や福笑いなどをして過ごし、近隣の神社に初詣をした。(参加利用者 33 名)

6)防火・防災管理

利用者の安全を最優先課題とし、避難体制の強化を図った。抜き打ちで行事等の途中の時間帯に訓練を行うなど、より実践的で臨機応変に対応できるように工夫を凝らした。

月	訓練項目等	実施内容	備考
4	防災対策会議 消防用設備定期点検①	年間計画と各職員の防災上の役割を確認した。 消防用設備等の総合点検を実施した。	職員 ㈱新日本コーポレーション
5	防災避難訓練 (地震想定)	26日(月)に実施。活動時間中の地震発生を想定し、安全確保と確認を迅速に行った。(参加者 39 名)	利用者、職員
7	防災避難訓練 (火災想定)	17 日(木)に抜き打ちで実施。活動時間中の火災発生を想定し、安全確保と確認を迅速に行った。 (参加者 37 名)	利用者、職員
8	自主点検	自主検査表に基づき、建物、消防設備を点検した。	担当職員、管理者
9	情報伝達訓練 防災会議 防災総合避難訓練	市健康福祉局主催で 5 日(金)に実施した。 災害時の対応、役割分担や防災カルテ等を確認した。 30 日(火)活動開始間もない時間帯に地震とそれに伴う火災を想定した避難訓練を実施。(参加者 41 名)	管理者、事務 全職員 利用者、職員
10	消防用設備定期点検②	消防用設備等の機能点検を実施した。	㈱新日本コーポレーション
11	防災避難訓練 (地震想定)	21 日(金)に実施。活動時間中の地震発生を想定し、安全確保と避難を迅速に行った。活動で所外に出ている際の連絡体制を検討した。(参加者 43 名)	利用者、職員

1	防災避難訓練 (火災想定)	26日(月)に実施。事業開始直後の火災発生を想定し 抜き打ちで行い、安全確保と確認を迅速に行った。 (参加者 44名)	利用者、職員及び 実習生
2	自主点検	自主点検表に基づき、建物・消防設備を点検した。	管理者、担当職員
3	備蓄食品等の確認	入れ替えた備蓄品の確認をした。	管理者、担当職員

7)健康管理

感染症対策のため検温・体調チェックを毎朝行った。また、状況に応じ顔色や食欲等のチェックを行い見守りをした。看護師による毎月の体重測定と体調面の確認や、年2回の尿検査及び嘱託医(水谷クリニック)による年2回(9月・3月)の内科検診を行った。また、昼食時などに服薬や歯磨きの支援を行った。

3. 支援概要

感染症対策として、来所・昼食時の手指消毒を朝・帰りの会や各作業室で随時行ったり、昼食については時間をずらし、食堂だけでなく活動室も利用する等の工夫を引き続き行った。

1)日課

8:30～ 9:10	9:10～ 9:15	9:15～ 10:30	10:45～ 12:00	12:00～ 13:00	13:00～ 14:15	14:30～ 15:45	15:45～ 16:00	16:00～ 17:00
朝の利用者通所の 打ち合せ	朝のラジオ体操 の会	活動A	活動B	昼食(休憩)	活動C	活動D	清掃 帰りの会 利用者帰宅	帰りの打ち合せ・記録等

2)各種活動支援

利用者個々が選択し、週間プログラムとして実施することで、一人ひとりの興味や志向を確認し、持っている社会生活能力等を引き出すことをめざした。

◎余暇活動

○音楽活動

カラオケの他、踊り、音楽鑑賞の時間をつくった。好きな曲を選択し、歌以外でも楽器で参加したり、聴いて満足する人、からだを揺らす人など様々な形で楽しさを表現した。

○創作活動

工作、絵画、塗り絵、切り絵、習字などの活動を通して、各個人の能力を引き出し、各自のペースを尊重しつつ、リラックスした雰囲気の中で取り組めるようにした。

○お菓子クッキング活動

材料の準備運搬から食器の片づけまで、各利用者の成長に合わせながら、様々な作業に携わり、自分たちで作ってそれを食べて、達成感を味わうことができた。

○ドライブ活動

利用者の希望も取り入れながら、街中、郊外の季節や風景の移り変わりを楽しんだ。また、参加者同士での会話や、好きな音楽を車内でBGMとして楽しむ場面もみられた。

○軽スポーツ活動

施設から外に出て近隣の神社や公園での散策を楽しんだ。また、所内で風船バレーやボッチャ、紙コップタワーなど楽しんで体を動かす活動を行った。

○所外活動

C、Dの2時限を使い、社会的な環境適応のための経験を積むため、ショッピングセンターやレトロ電車館などの施設を訪問した。健康増進やリラックス効果も得られ、少し遠出をして様々な場所に出かけることを楽しんだ。

○工賃支給日・誕生日プレゼント

毎月の工賃支給日に、菓子・飲み物で日々の労をねぎらった。また、全員で集まって行う誕生会ではなく、原則誕生日にプレゼントをお渡しして個別にお祝いした。

◎生産活動（作業）

社会的自立をめざす一環として、個別支援計画に沿って、個々の適性に応じた作業工程を提供している。

○ごみ袋セット(粗品)作り作業

市指定ゴミ袋を折りたたみ、ラベルとともにラッピング袋に入れる作業を行った。自主製品として昭和・瑞穂区を中心とした区役所、関連団体、会社などから受注している。

○箸の袋詰め作業

受注・納品により、ロゴ入り箸袋に割り箸を入れて袋詰めする作業に取り組んだ。箸の表裏の確認や百膳を数える作業、ビニール袋にきれいに詰め込む作業に取り組んだ。

○箱折り作業

業者の材料の持ち込み、製品回収により、贈答用の箱を折る作業に取り組んだ。折り目に沿ってきれいに形づくりの確実性が求められ、熱心に取り組む利用者の姿が見られた。

○釘袋入れ作業

受注納品により、釘類を指定通り袋に詰め、シールを貼りホチキス止めする工程や、釘にシールを貼りまとめる工程に取り組んだ。経験を積むことにより、できる作業を増やした。

○自動販売機を中心とした飲料販売

玄関に飲料自動販売機を設置し、缶類の補充やメンテナンスを作業として行い、その売上を工賃にした。

○アルミ缶回収作業

事業所前に回収カゴを設置し、近隣の方に入れていただいたアルミ缶を選別して袋詰めする作業に取り組み、リサイクル業者に回収を依頼した。

3) 工賃

平均工賃・・・ 1,109 円／月（6年度 871 円／月 5年度 ￥985 円／月）

今年度は、ごみ袋作業が減少したが、飲料販売は増加した。それぞれの作業能力にあわせた役割を実感できる利用者も少なくないことから、工賃の増加を図っていきたい。

4. その他の諸活動

1) 利用体験・教育実習・施設見学の受け入れ

社会福祉士資格の取得のための実習を中心に受け入れを行った。

○利用体験実習

在宅または就学中の障害者を対象に、生活介護事業所での体験を通じて学校卒業後などの日中の過ごし方について考える機会を提供した。

天白特別支援学校高等部	1名	男性
-------------	----	----

○教育実習

大学・専門学校等で学ぶ学生に、施設としてその目的に沿った実習の場を提供した。

社会福祉士実習 (相談援助実習)	2名	日本福祉大学社会福祉学部通学課程 1名 日本福祉大学中央福祉専門学校通信課程 1名
教員免許特例法による介護等体験実習	0名	なし

○職場訪問活動(福祉体験)受け入れ

本庄中学校 6名

南山大学附属中学校 3名 合計9名

2) 広報活動

広報紙として「若杉通信」を原則年4回発行しており、令和6年度は春夏秋冬の4回発行した。また、6月と2月に南・天白・西・守山特別支援学校の概ね全校生徒を対象にパンフレットを配付し、若杉作業所のアピールを行った。これから利用を考えている方、小中学校の実習生、見学者等のために、分かりやすくルビを振ったパンフレットを配付した。

4) 苦情解決

施設の福祉サービスに対する苦情の受付はなかった。

5) 社会貢献活動

○地域の下構大和町内会の総会や子ども会のラジオ体操の会場の提供を行った。地域開放事業となる交流フェスティバルは、感染症対策を図りながら実施した。

○名古屋市福祉避難所として登録しており、非常食などの災害部品の備蓄を行い、地域防災活動に貢献している。

5. 利用者の状況

1) 入所者・退所者状況(定員 40 名)

各月末現在

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
利用者数	36	36	36	36	36	36	36	36	35	35	35	35
利用実績	29.6	29.1	29.1	28.1	27.6	28.0	28.4	27.4	29.8	29.3	28.2	28.1

*年間平均出席人数 28.5 名 開所日数 245 日 利用率 81.6%

2) 年齢別利用者状況

令和 8 年 3 月 31 日現在

年 齢 (歳) 性別	～20	21～ 25	26～ 30	31～ 35	36～ 40	41～ 45	46～ 50	51～	計	平均年齢
男性 (名)	0	1	6	5	4	0	3	7	26	41.8 歳
女性 (名)	0	0	1	2	0	0	3	3	9	45.6 歳
計 (名)	0	1	7	7	4	0	6	11	35	43.1 歳

*最年少 … 26 歳 最高齢 … 74 歳

3) 利用期間別

令和 8 年 3 月 31 日現在

期 間 性別	1 年 未満	1～3 年 未満	3～5 年 未満	5～7 年 未満	7～10 年 未満	10 年 以上	計
男性 (名)	0	1	0	1	5	19	26
女性 (名)	0	0	0	0	3	6	9
計 (名)	0	1	0	1	8	25	35

*最長利用期間 … 男性:38 年 3 か月 女性:44 年 4 か月

4) 障害別

令和8年3月31日現在

障害 性別	知的	身体	精神	てんかん	自閉症	ダウン症	その他
男性 (名)	26	2	0	5	12	5	0
女性 (名)	9	1	1	1	1	2	0
計 (名)	35	3	1	6	13	7	0

5) 障害支援区分別

令和8年3月31日現在

障害支援区分	1	2	3	4	5	6	計
男性 (名)	0	0	3	10	8	5	26
女性 (名)	0	0	1	3	4	1	9
計 (名)	0	0	4	13	12	6	35